

令和3年11月24日

令和3年度 第2回 富岡小学校学校運営協議会

14:45～15:45（図書室）

【参加者 11 人(委員 9 人、教頭、教務主任)】

＜各学級の学習参観＞ 5限 13:40～14:25

＜会議議事録＞

1 開会の挨拶 会長 横山 明夫

- ・毎月発行される学校だよりを読んでいる。11月号では、いじめ対策、校内マラソン大会、6年生の修学旅行など、学校での教育活動の様子がよく分かる内容になっている。コロナ禍の中でも工夫して教育活動を行い、継続できていることが素晴らしい。今日のこの学校運営協議会では、児童のためにどんなことができるのか、一緒に考えたい。

2 目指す子ども像とこれまでの学校経営について 校長 石田 浩久

資料をもとに説明（パワーポイント）

- ① 富岡の子どもがどう育ってほしいか
- ② 学校運営の進捗状況と課題
- ③ 特色ある教育活動～各学年のみらい学習～
- ④ 特色ある教育活動～地域との連携等～
- ⑤ 全国学力・学習状況調査の結果の概要
- ⑥ 校内研修と職員の指導力育成
- ⑦ i P a d の活用による授業改善・業務改善
- ⑧ Q－U（楽しい学校生活を送るための）調査から
- ⑨ 体力の向上、メディアコントロール（の実態）
- ⑩ いじめ・不登校・虐待等への対応
- ⑪ 地域連携・働き方改革・その他

3 協議

（1）規約の改正について 校長 石田 浩久

- ・上越市学校運営協議会規則が、平成28年、31年、令和2年に改正されていることに伴い、規約の見直しが必要である。
- ・学校運営協議委員の全員が承認

（2）前期学校評価の結果と今後の取組についての説明 教頭 阿部 祐治

＜児童アンケート＞

- ・児童アンケートでは、12項目中、11項目で肯定的評価（A+B）の数値が80%を超えていた。これは、昨年度と同じ傾向であった。多くの児童が学習・生活・健康の項

目において、努力し、頑張ったことが分かった。学習においては、「話合いに参加し、学んだことや分かったことを書くことができる」が 94.7%（昨年度 84.6%）と高評価となっていた。生活においては、4つの項目で 90%を超えた。昨年に引き続き、大変良い評価だった。特に、「ルールややくそくを守ってすごしている」は、97.9%（昨年度 93.8%）と 4.1%の上昇が見られた。健康面においては、3項目ある中、1つは 95%を超え、残りの2つは、81%と 82%となっていた。特に「体を動かすことが楽しい」は、97.9%で成果を上げた。

<保護者アンケート>

- ・ 11 項目中、6 項目で肯定的評価（A+B）の数値が昨年度よりも向上した。その中でも「やさしい言葉づかいをしている」は、昨年より 11.1%も向上した。また、「思考力・判断力・表現力が高まっていると感じますか」では、78.3%（昨年度 71.6%）と 6.7%向上した。

<課題に関する今後の取組>

・ 知育部

- 富岡学習ルールを振り返る機会をもつ。月一回程度、Google フォームのアンケート（支援プロの方につくってもらう）で振り返りを行う。
- 読書週間の取組を学年だより等で呼びかける。特に親子読書を推奨する。また、図書室利用の機会を定期的にもつ。（○曜日の○時間目等）
- 基礎・基本の学力の定着を図るため、ドリル等で練習をする。
- NRT やワークテストの結果を学年だよりで知らせ、家庭にも学力の実態を伝える。（任意で）

・ 徳育部

- あいさつは、今まで通り、人数目標、委員会の朝チェック、昼の放送を継続していく。さらに、一人ひとりが振り返る時間を設けて、あいさつがあふれる学校を目指す。
- 言葉遣いについては、生活のめあてとかかわらせて取り立てて指導するとともに、見聞きした時にその場で注意することを継続していく。
- 廊下歩行については、委員会活動として強調週間を設けて改善を図っていく。

・ 体育部

- 生活リズムチャレンジにおいて、より意識して活動を行えるように、3 学期は、個々のデータを比較できるように支援プロジェクトのメンバーと連携を図りシステムを構築する。
- 委員会のイベントや学校行事と合わせて運動が楽しめるようにしたり、授業で体験したり練習したりすることを重ねていく。
- 12 月までに筋持久力と俊敏性の計測の 2 回目を行い、成果として数値が向上しているかを確かめる。また、結果を受けて体育のウォーミングアップで行っていた筋持久力（上体越こし）と俊敏性（反復横跳び）の向上の取組を見直したり継続したりする。

(3) 授業での子どもの様子や②を受けた今後のCSとしての取組について

<学力向上>

- ・授業参観を見て回ったが、担任が授業を工夫しており、どの学年の児童も落ち着いて学習していた。
- ・授業参観の様子から学習への取り組む姿勢に問題があるとは感じられないが、なぜ学力に課題があるのか、検討する必要がある。
- ・家庭学習への取組に課題がある。メディア（ゲーム、ユーチューブ等）に時間を費やし過ぎて学習に集中できない様子が見られる。メディアのない生活は考えられない時代になってきているので、うまい付き合い方を学んでほしい。
- ・宿題をやっている様子を見てみると、前の学年で習った内容を親に聞いてくることがある。学習内容がしっかりと定着していないのではないかな。
- ・富岡小学校では、宿題+自主学習=学年×10分の家庭学習を基本としているが、なかなかできていない。自主学習の内容が自分のためになっていないように思える。家庭学習が習慣化できる手立てが必要である。
- ・問題文の意味が分からないことがある。読書を積極的に行って、読解力を身に付けてほしい。
- ・メディアに触れない日等を家庭で設定すると、子どもが読書をしたり、興味関心のあることをやったりすることがあるので工夫してみるとよい。
- ・メディア接触は幼児から低年齢化が進んでいる。長時間の接触は、避けられない課題である。自己コントロール力を培うことを考えなければいけない。

<読書活動>

- ・今年度の6年生に対して行われた学力・学習状況調査では、家庭での蔵書数が多い方がテストの正答率が高くなる傾向が明らかになったとのこと。学力と家庭読書は関係性が高い。
- ・2学期の読書週間では、親子で読書をする時間をなるべく作るようにした。親も一緒に読書をした方が子どもも読書をするようになると思う。

<富岡小学校に関わる組織について>

- ・富岡小学校には、学校運営委員会、青少年育成会議、PTAなどいろいろな組織がある。その組織の一員になって初めて分かることがある。そのため、それぞれが何のためにあり、どんなことをしているのか、よく分からない人が多いのではないかな。
- ・いろいろな組織が連携して子どもたちのために活動できるようになるとよい。組織に応じて、地域の方が中心となって途切れることなく継続して運営できるような人材や運営方法を考えていく必要がある。
- ・富岡地区体育大会や文化祭（富岡スタンダード）など、地域と連携・協働できる活動を整理し、役割分担を明確にしながら取り組んでいく方法を考える。